

パソコン操作世界8位

長野商3年、近藤さん快挙

MOS学生大会

米マイクロソフト社製のパソコン用ソフトの操作技術を競う「マイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)世界学生大会」で、文書作成ソフトのワード部門に出場した長野商業高校(長野市妻科)商業科3年、近藤里桜さん(17)が8位に入賞した。日本の高校生では大会史上最高となる快挙で、近藤さんはさらなる技術向上に意欲を見せている。



「将来は、情報処理を教えるのが夢」と笑顔の近藤さん(長野商業高校で)

MOSは、ビジネスで必要なパソコン技術を高めるために各地で毎月行われている認定資格試験。世界大会は2003年から毎年行われ、今大会には57か国の学生約22万8000人がエントリー。書類選考などを通過した29か国の79人が1、2両日(現地時間)、米カリフォルニア州サンディエゴで開かれた大会で、

「ワード」や表計算ソフト「エクセル」など3部門に出場した。近藤さんは日本代表5人のうち唯一の高校生だった。ワード部門には米や欧州などから約20人が挑んだ。制限時間内に、指定されたレイアウトやデザインでビジネス文書を作成したり、文字の書体や大きさ、色を変えざるなどの課題に取り組

み、操作の正確性を競った。近藤さんは「緊張で指があまり動かなかったけど、練習したことを全部出そうと思った」と、課題を一つずつ冷静にこなした。パソコンは小学生の頃に始めたが、高校生になって本格的に技術習得を目指した。「就職活動の武器になる資格がほしい」と、高校1年の時にMOSの勉強を

始めた近藤さん。授業のほかに放課後も自習して着実に技術を身に付け、1月のMOSでは満点を獲得した。課題をクリアしながら操作が速くなるのが楽しみで、ゲーム感覚でのめり込んだ。ホームページ制作などが得意。最近では同級生だけ

でなく、教諭もパソコンの操作方法を近藤さんに尋ねることも多い。同校で情報処理技術などを教える松村秀寿教諭(51)は「彼女に刺激を受け、資格取得を目指す生徒も増えてきた」と目を細める。世界8位という成績に、近藤さんは「自分の力が順位に表れたのはうれしかった」と笑顔を見せる。将来は、情報処理を教えるのが夢。「受験勉強と両立させながら、ワードだけでなくエクセルやパワーポイントの技術も向上させたい」と話している。